

《 障がいを理由とする差別の解消について 》

【調査の目的】

福岡県では、障がいのある人もない人も、分け隔てられることなく、互いに、その人らしさを認め合いながら共に生きる社会、共生社会の実現を目指し、平成29年に「福岡県障がいを理由とする差別の解消の推進に関する条例」を制定しました。

この条例では、全ての人に対し、障がいを理由とする差別の解消と、障がいのある人への合理的配慮の提供(※1)を行うことを求めており、県では、その実現に向けて取組を行っています。

これらの周知状況等について県民の皆さまの御意見をお聴かせいただき、今後、取組を推進する上での参考とさせていただきます。

【活用状況】

・福岡県障がいを理由とする差別の解消の推進に関する条例の内容を広く県民に周知するための参考資料として活用。

・効果的な広報啓発を行うための参考資料として活用。

(福祉労働部障がい福祉課)

※1「合理的配慮の提供」とは

障がいのある人から、社会の中にあるバリア(社会的障壁(※2))を取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられたときに、負担が重すぎない範囲で対応すること。

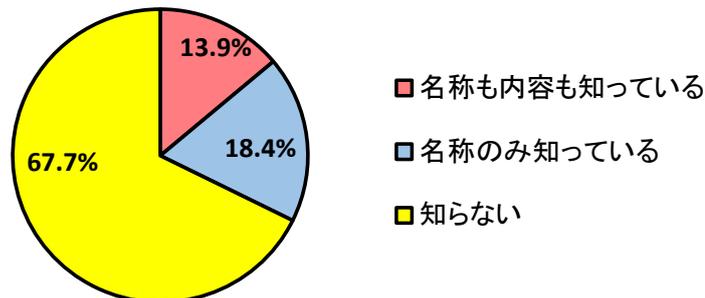
※2「社会的障壁」とは

日常生活又は社会生活を営む上で障壁となるような社会における事物、制度、慣行、観念、偏見その他一切のもののこと。

問1 あなたは、「福岡県障がいを理由とする差別の解消の推進に関する条例」を知っていますか。
次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

(回答者数353人 選択は1つのみ)

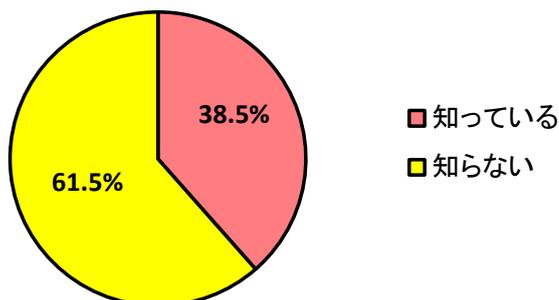
1 名称も内容も知っている	13.9%	(49人)
2 名称のみ知っている	18.4%	(65人)
3 知らない	67.7%	(239人)



問2 あなたは、条例でも規定されている「合理的配慮の提供」という考え方を知っていますか。
次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

(回答者数353人 選択は1つのみ)

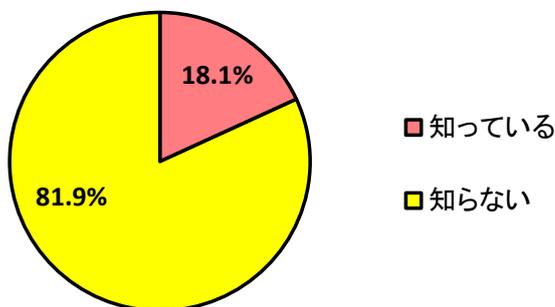
1 知っている	38.5%	(136人)
2 知らない	61.5%	(217人)



問3 あなたは、障がい者を理由とする差別や合理的配慮の提供に関する相談を受け付けている「障がい者差別解消専門相談窓口」を県が設置していることを知っていますか。
次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

(回答者数353人 選択は1つのみ)

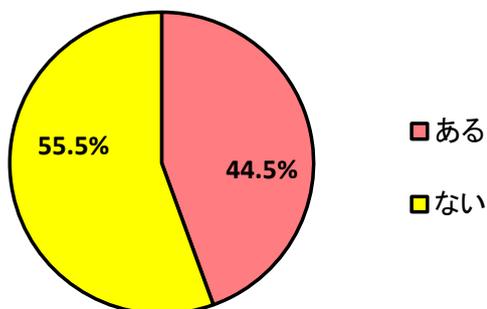
1 知っている	18.1%	(64人)
2 知らない	81.9%	(289人)



問4 あなたは、過去1年間で、障がいのある人に支援や配慮をしたことがありますか。
次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

(回答者数353人 選択は1つのみ)

1 ある	44.5%	(157人)
2 ない	55.5%	(196人)



(問4で「1」を選んだ方にお尋ねします。)

問4-2 どのような支援や配慮をしたか、具体的に入力してください。

〔抜粋〕

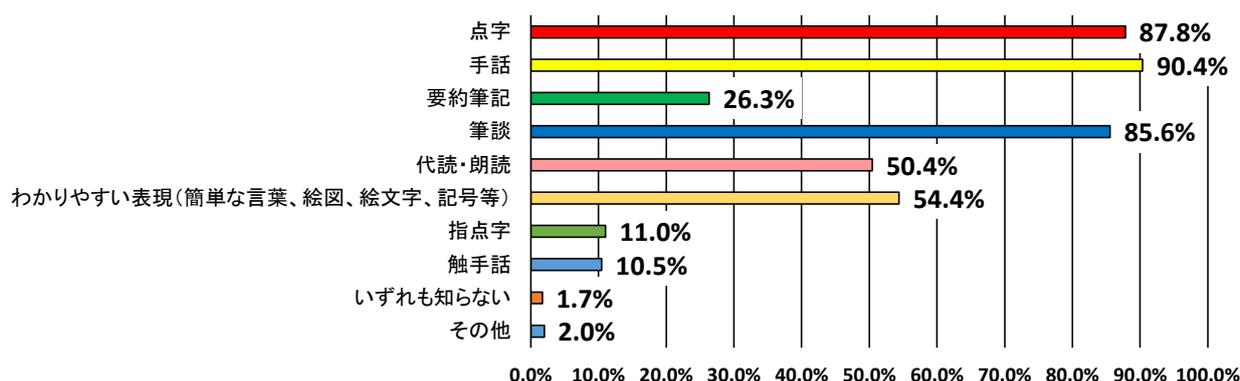
- ・ 視覚障がいのある人をバス停まで案内して、一緒にバスを待った。
- ・ 車椅子の方が通りやすいように、邪魔になっている自転車を動かして、通ってもらった。
- ・ 社内の聴覚障がいのある人に対して、わかりやすい話し方をしたり、声のボリュームを上げる、筆談をする、マスクをしないで話すなどをした。

問5 障がいのある人とコミュニケーションをとる時に使われる手段や配慮を知っていますか。
次の中から知っているものを【すべて】選んでください。

(回答者数353人 回答件数1,483件 複数回答可)

1	点字	87.8%	(310人)
2	手話	90.4%	(319人)
3	要約筆記	26.3%	(93人)
4	筆談	85.6%	(302人)
5	代読・朗読	50.4%	(178人)
6	わかりやすい表現(簡単な言葉、絵図、絵文字、記号等)	54.4%	(192人)
7	指点字	11.0%	(39人)
8	触手話	10.5%	(37人)
9	いずれも知らない	1.7%	(6人)
10	その他	2.0%	(7人)

※回答者353人に対する割合

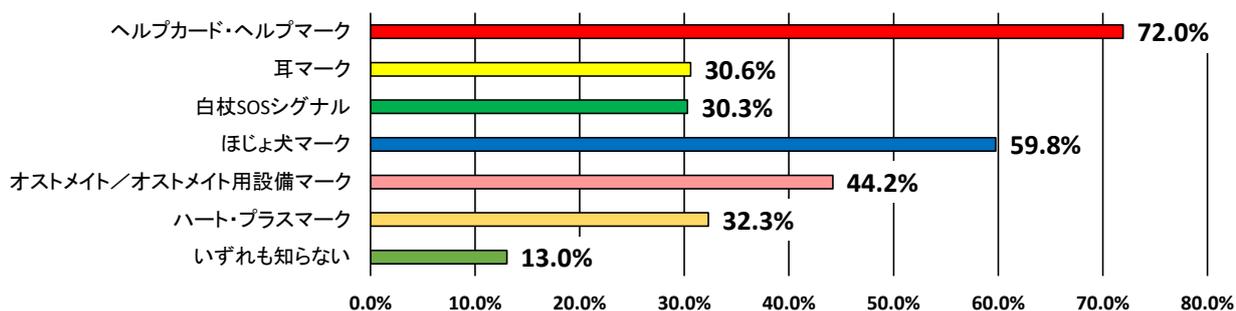


問6 あなたは、次のマーク等を知っていますか。
次の中から知っているものを【すべて】選択してください。

(回答者数353人 回答件数996件 複数回答可)

1	ヘルプカード・ヘルプマーク	72.0%	(254人)
2	耳マーク	30.6%	(108人)
3	白杖SOSシグナル	30.3%	(107人)
4	ほじょ犬マーク	59.8%	(211人)
5	オストメイト／オストメイト用設備マーク	44.2%	(156人)
6	ハート・プラスマーク	32.3%	(114人)
7	いずれも知らない	13.0%	(46人)

※回答者353人に対する割合



1 ヘルプカード・ヘルプマーク

義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方、または妊娠初期の方など、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることができるマークです。



(ヘルプカード)



(ヘルプマーク)

2 耳マーク

聞こえが不自由なことを表すと同時に、聞こえない人・聞こえにくい人への配慮を表すマークです。



3 白杖SOSシグナル

白杖を頭上50cm程度に掲げてSOSのシグナルを示している視覚障がいのある人を見かけたら、進んで声をかけて支援しようという「白杖SOSシグナル」運動の普及啓発シンボルマークです。



4 ほじょ犬マーク

公共の施設、交通機関、民間施設での補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)の受け入れを義務付けている身体障害者補助犬法の啓発のためのマークです。



5 オストメイト／オストメイト用設備マーク

オストメイトとは、がんなどで人工肛門・人工膀胱を造設している人のことをいいます。このマークはオストメイトであるごとと、オストメイトのための設備(オストメイト対応のトイレ)があることを表しています。



6 ハート・プラスマーク

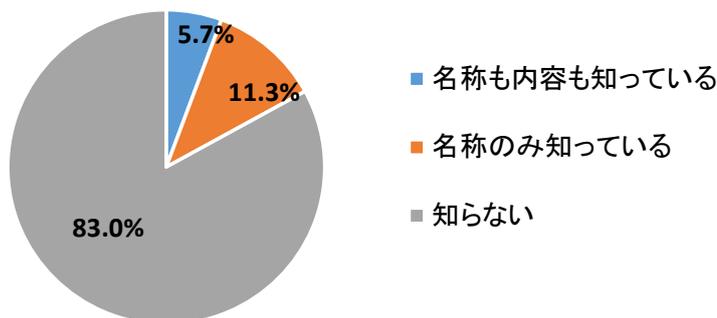
「身体内部に障がいがある人」を表しています。身体内部(心臓、呼吸機能、じん臓、膀胱・直腸、小腸、肝臓、免疫機能等)に障がいがある人は外見からは分かりにくいので、様々な誤解を受けることがあります。内部障がいのある人の中には、電車などの優先席に座りたい、障がい者用駐車スペースに車を止めたい、といったことを希望していることがあります。



問7 あなたは、「福岡県手話言語条例」を知っていますか。
次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

(回答者数353人 選択は1つのみ)

1 名称も内容も知っている	5.7%	(20人)
2 名称のみ知っている	11.3%	(40人)
3 知らない	83.0%	(293人)



問8 障がい理由とする差別の解消について、これまでの設問以外に意見はありますか。
ある場合は、その内容を具体的に入力してください。

[意見(抜粋)]

- ・ 身体障がい者への配慮はかなり進んだと思うが、障がいが見えにくい精神障がい者への理解や配慮が浸透するまでは困難を極めていると感じる。精神障がい者への理解を深めるような行政の取り組みを期待する。
- ・ 当事者家族だが、障がいも様々であり、気をつけるところや配慮して欲しいことがそれぞれ違うため、困り事の声を出しやすい、または聞いて欲しい環境を無くさないでほしい。
- ・ 障がいのある方がどんな障がいがあるか、見た目では分からないことも多い。
見た目でも配慮が必要としていることが分かるようにしたヘルプマークなどの認知を更に広げてほしい。
- ・ 障がいのある人がどんな場面でどのようなサポートを必要としているかを知りたい。ヘルプマークを付けている人はよく見かけるが、困ったときに助けてほしいという意味なのか、通常の時もサポートが必要なのか(例えば電車で席を譲るべきなのかどうか)がわからないため、自分に何ができるか学ぶ機会があるといいと思う。
- ・ 車椅子を押す機会があり、家の周りや繁華街で凹凸のある道がたくさんあると感じた。高齢化社会になっていくのは間違いないため、もっと歩行者や車椅子にも優しい街にして欲しい。
- ・ 条例の趣旨や「合理的配慮」という考え方について、言葉としては聞いたことがあっても、具体的にどのような行動が求められるのか分かりにくいと感じる人も多いと思う。日常生活の場面や職場、学校など、身近な事例を用いて分かりやすく説明する広報や啓発がさらに進むと、理解が深まりやすくなる感じる。
また、障がいのある人への配慮は特別なことではなく、互いに無理のない範囲で工夫し合うことが大切だという考え方が、県民の間に自然に広がることが重要だと感じる。
相談先や支援制度についても、当事者だけでなく周囲の人が知る機会を増やすことで、共生社会の実現に一步近づくのではないかと思う。
- ・ どのような差別があるのか、またマークの種類についても、一覧で分かりやすく表にしてもらい、広報誌や公共交通機関での掲示など、目にすることができれば、多くの方が知るきっかけになると思う。
- ・ 学生時代に障がいについて学ぶ機会があったが、どのようにコミュニケーションを取ればいいのかを体験する機会がなかった。
どのように声掛けしたり、接していいかわからないため、こちらは配慮のつもりでも差別になっているのかもしれないと考えることがある。
- ・ 小さい頃から障がいの有無に関わらず一緒に過ごせると、それが当たり前だと認識になり、差別や偏見も生まれないうと思う。
- ・ 手話で簡単な会話ができるよう、無償で手話教室があると興味を持って参加しやすくなると思う。